

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）  
「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」  
平成25年度採択プロジェクト企画調査 事後評価結果報告書

平成 26年 5月15日  
プログラム総括 森田 朗

1. 研究代表者：

仙石 慎太郎（京都大学 物質－細胞統合システム拠点 特定拠点准教授）

2. プロジェクト企画調査の題名：

学際連携・異分野融合の設計・推進・評価手法の事例検証

3. プロジェクト企画調査期間：

平成25年10月～平成26年3月

4. プロジェクト企画調査の概要：

学際・融合に最適化された、体系的な評価システム、及び汎用的な推進システムの開発・導入を目指す研究開発提案の実行可能性及び実効性を確認することを目標とした。具体的には、①既存の評価手法の検証（既出の科学計量学的評価指標を我が国の政策プログラム事例に適用し、得られた評価結果と実際の評価結果との比較・検証を通じ、その有用性と適用可能性を検証するとともに、新たな指標開発の必要性の判断）、②既存の設計手法の検証（同一研究代表者による複数の政策プログラムにまたがる研究開発プロジェクト事例について、政策プログラムの切り替え時におけるプログラム・デザインへの影響や当事者間の対応等の観察を通じて、求められるツール及びプロセスについての仮説的な提案）、を行うため、具体的な政策プログラムを事例として、学術文献情報の分析、有識者インタビュー、個別研究者へのサーベイなどを実施し、検証を行った。

5. 事後評価結果

5-1. プロジェクト企画調査の目標の達成状況

概ね計画された活動が実施されており、目的とした「学際連携・異分野融合の設計・推進・評価の手法」に関する基盤的なデータが得られたとものと評価する。しかしながら、終了報告書の内容からは、既存の計量書誌学的方法論が評価指標として機能し得るとした結論の妥当性や、本調査において見出された問題点から新たな指標開発の必要性につなげる検討や考察が必ずしも十分ではなく、当初の構想の実行可能性及び実効性について、説得性のある成果が示されたとは言い難い。

5-2. 研究開発プロジェクトの提案に向けた準備状況

課題解決やイノベーションにつながる研究開発の促進に向け、学際連携・異分野融合を促すプログラムの設計や評価の手法を開発しようとする構想の問題意識は重要である。今回の調査により、学際・融合研究開発拠点の成果や活動指標の調査分析・評価フレームワークが示されたことは、構想の具体化につながるものと期待される。しかしながら、終了報告書の記載からは、本調査の成果から、どのような再提案を出そうとするのか、すなわち、当初の構想の実効性がどのように高まったのかを十分に確認することはできなかった。

再提案に際しては、「学際連携・異分野融合の設計・推進・評価」のための方法論を構築するための道筋を示し、実効性のある成果を導出し得るような検討が必要である。

以上